

富士見市立本郷中学校だより



群青

令和8年度埼玉県学力・学習状況調査報告

群青 県学調号

1 調査の目的（埼玉県教育委員会HPより）

県教育委員会では、子供たちが現在の実力を知り、「どれだけ自分が伸びたか」を実感し、自信を深めていくことを大切にしたいと考えています。

そして、自信を持った子供たちが、自分をさらに伸ばし、自分のよさを活かしていけるような教育を進めていきたいと考えています。本調査は、「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という今までの視点に、「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という視点を加えることで、子供たちの成長していく姿が見える、全国でも初めての調査です。

2 分析結果と課題（令和8年5月7日・5月13日・5月14日実施）

（1）学力（平均正答率・学力の伸び・昨年度一年間で伸びた生徒の割合）

3年国語	R8平均	R6中1	R7中2	R8中3	学力の伸び	伸びた生徒
埼玉県	56.8	7-A	8-C	8-A	2	65.8%
本郷中	55.9	7-C	7-A	8-A	3	75.8%
3年数学	R8平均	R6中1	R7中2	R8中3	学力の伸び	伸びた生徒
埼玉県	51.7	6-B	7-A	7-A	0	57.7%
本郷中	49.7	6-C	7-B	7-A	1	60.0%
3年英語	R8平均	R6中1	R7中2	R8中3	学力の伸び	伸びた生徒
埼玉県	47.3	—	9-C	9-A	2	76.1%
本郷中	47.0	—	9-C	9-A	2	76.6%
2年国語	R8平均	R7中1	R8中2		学力の伸び	伸びた生徒
埼玉県	63.5	8-C	8-B		1	67.4%
本郷中	62.5	7-A	8-B		2	71.4%
2年数学	R8平均	R7中1	R8中2		学力の伸び	伸びた生徒
埼玉県	52.4	6-A	7-B		2	74.0%
本郷中	53.7	6-B	7-A		4	79.0%
2年英語	R8平均	R7中1	R8中2			
埼玉県	46.1	—	9-C			
本郷中	46.4	—	9-C			
1年国語	R8平均	R8中1				伸びた生徒
埼玉県	64.5	8-B				89.9%
本郷中	65.5	8-B				89.8%
1年数学	R8平均	R8中1				伸びた生徒
埼玉県	47.0	6-A				71.5%
本郷中	46.7	6-B				82.4%

（２）結果分析

この学力調査は、設問ごとに難易度が設定されており、前年度Bレベルの問題を解けた生徒が今年度もBレベルの問題を解けていれば着実に伸びていると判定されます。また、小学校4年生から中学校3年生まで6年間継続して、児童生徒個人の学力の伸びを追っていきます（1年生は、データの引継ぎにより、小学校時代からの学力の伸びも反映されています）。よって、全体の平均値や個人の「学力」が県平均を上回っているかなどという視点ではなく、全体や個人が昨年度1年間でどれだけ伸びたかに着目します。ご家庭でも、個人結果票のグラフが着実に階段状に上がって行っているかをご確認ください。

※レベルは数字3段階で上がり、アルファベットも3段階（C⇒B⇒A）で上がる。

【3年生】

国語は、伸びた生徒の割合も県平均を10ポイントも上回るなど、学力の伸びが顕著。記述式解答も苦手としなくなってきた。**数学**は、「データの活用」を得意とし、着実に伸びているが、「図形」や「関数」を苦手としている。**英語**は、「読むこと」を苦手としているが、「話すこと」などアウトプットを得意としている。

【2年生】

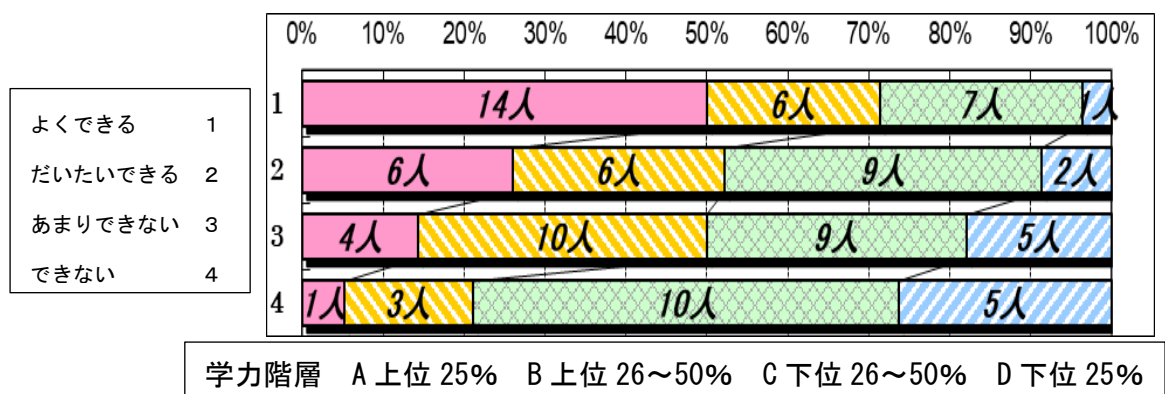
国語は、漢字など基礎的な問題の取りこぼしがあるが、伸びた生徒も多く、順調に知識が身についている。**数学**は学力レベルが4段階と一気に伸び、大幅なジャンプアップ。発展的な問題への対応ができるようになればさらに伸びるはず。中2から始まる**英語**は、県平均を上回るスタート。4技能の中で「書くこと」を若干苦手としている。

【1年生】

小学校6年次の学習内容・伸びが問われた。**国語**では、どの領域もまんべんなく加点できている。県平均も上回り、順調なスタートとなった。**数学**（6年次の算数）では、昨年度一年間で伸びた生徒が多く、6年次のがんばりが結果となって出ている。応用問題への対応力があるため、基礎的な知識・理解から着実な学力を身につけさせていきたい。

3 質問紙調査と学力の相関関係（3年生質問紙調査より）

非認知能力と3年生国語の学力階層の関連



学力テストでは測れない、自己肯定感・粘り強さ・協調性・感情のコントロール・好奇心などとされる「非認知能力」が高い生徒は学力（認知能力）も高いことがわかる。テストで測る学力の向上は一朝一夕にできることではないが、本校では引き続き社会や仕事、人間関係など幅広い場面で生きる力になる「非認知能力」の育成に教科の指導や学級活動等、すべての教育活動において組織的に取り組んでいく。